

水稻「彩のきずな」について

品種特性

- 「キヌヒカリ」に比べ) やや多収、短稈の中生品種。
- ごはんの食感に関する成分「アミロース」が低いいため、粘りが強くもちりとした食感が特徴の良食味品種。
- 暑さに強く、夏季の高温状況においても品質低下を防ぐことができる。
- 病害虫複合抵抗性を持ち、減農薬栽培が可能。



高温による被害を受けた玄米
 左：彩のきずな 右：コシヒカリ

統一デザイン
 (平成30年9月14日商標登録)

令和元年産の作付状況

- 平成26年から本格的に一般栽培を開始し、令和元年には5,200ha(推計)の作付が行われており、年々作付が増加している。
- これまでの作付状況の推移

年産	25	26	27	28	29	30	R1
作付面積(ha)	100	1,200	2,100	3,000	3,400	4,000	5,200
県内作付割合(%)	0.3	3.5	7.0	9.5	10.8	12.5	16.3
1等米比率(%)	99	93	90	91	95	85	85
参考：県産米全体	67	80	69	88	90	58	71

(作付面積：生産振興課推定値 1等米比率：農林水産省 11/30 現在、12/31 公表)

今後の予定等

- 引き続き、県主要品種として作付拡大を推進していく。